

医歯学祭を終えて

歯学科3年 山本 悠

はじめに、第四回医歯学祭を開催できましたことにおきましては、前田学部長、顧問の佐伯先生、医歯学祭実行委員会設立の際にお世話になりました山村先生、学務系の皆様、歯学部関係者の皆様、まことにありがとうございました。

こんにちは、第四回医歯学祭実行委員会委員長山本悠です。歯学部ニュースには毎年『歯学生の今』ということで文を掲載させて頂いていますが、今回は医歯学祭についてです。

突然ですが、皆さんは医歯学祭についてどのように考えているのでしょうか。数秒考えて頂きたいと思います。……………はい！時間になりました。そうです。文化祭です。たかが文化祭です。しかしされど文化祭。奥はものすごく深いです。そんな文化祭に、一年生の頃から、三年生の今まで、全力で、本気で取り組んだことは、私の自慢です。そして、この医歯学祭を共に作り上げてくれた歯学部の友も自慢です。とても感謝しています。ありがとうございます。

初めて旭町の文化祭に行ったのは、一年生の時でした。前夜祭に行ったときの衝撃は忘れられません。歯学部生がいない。もちろん本祭をみても、いない。そこはまさに医学祭でした。

どこをみても、医歯学祭には『歯』がないんです。『歯』がないということは、極めて重大な問題である。審美的にも機能的にも。どうりで、いまいち花がない。雰囲気もイマ〇チ。では運営、企画をみると、言わずもがな。です。『歯』がないということは、ここまで質、いいかえればQOLを低下させてしまうのだと、ひしひしと感じました。

冗談はこのへんにしまして、私が一年生の頃は、医歯学祭実行委員に歯学部生はひとりも在籍していませんでした。というよりも、歯学部に行き実行委員会が存在しないため、在籍できないということでした。そのため、歯学部側には情報はま

わってこない、つまりは参加しようとする人もいない。という悪循環になっていました。

私の行動はここから始まります。三年生が学祭の運営をするので、三年生までには、ある程度環境を整えよう。そして卒業するまでに、確たるものを確立しようと考えました。六ヶ年計画です。今も進行中です。

まず、学祭終了数日後の、実行委員主催イベントに参加をしました。ようは、始めの偵察ということ。歯学部の一年生は私一人、もちろん歯学部の先輩は一人もいません。そこで様々な情報を仕入れて、次のイベントには、歯学部のメンバーも誘って参加をしました。このメンバーこそが、共に医歯学祭を歯学部に着、周知させ、内外で歯学部への存在感、発言力を高めてくれた精鋭部隊です。

三年生が主に学祭を運営するので、それまでの一、二年生のうちは出来るだけ、多くのイベントに参加し、医学部の先輩に顔を覚えてもらう。そして、学祭運営、その他もろもろのノウハウを学びました。その頃は歯学部にも、そのような話を聞ける先輩は一人もいませんでしたが、今後は歯学部の先輩後輩でもそのような話をすることができるようになります。

二年生の時は次なる問題が出てきました。歯学部の実行委員メンバーが一、二年生で10人ほどになりましたが、なんと歯学部生が所属する実行委員会がないのです。私も始めは知らなかったことですが、医学部には大学公認の医歯学祭実行委員会があり、もちろん顧問の先生もいるので、彼らはそこに在籍し、オフィシャルな活動ができます。しかし歯学部には、実行委員がないため私たち歯学部生だけが大学非公認のよくわからない存在、立場でした。非公認なので、内外の活動、後輩勧誘も非公認、なにか問題があっても、大学の非公認ですから、歯学部生だけが不利益を被る可

能性もありました。そこで取り組んだのは、歯学部にて実行委員会を作ることでした。ただ作るにしても、公式なものなので、顧問の先生も必要になりますし、新たなものを立ち上げるので、様々な方のご協力も必要になります。前田先生、山村先生、学務係の方のご協力もあり、三年生の4月には無事、歯学部にも実行委員会を設立することができました。顧問は佐伯先生にやって頂くことになりました。今現在の歯学部医歯学祭実行委員会は、一年生から三年生で20名ほどになりました。

ここまでが『医歯学祭』に『歯』を生やす準備です。予定通り三年生までに、歯学部も主体的に活動できる場を作ることができたので、いよいよ活動が始まります。『歯』を生やしていきます。

第四回にして、歯学部が初めて主体的に医学部と共に医歯学祭を作り上げる、今回が第一回と言ってもいいと思います。第一回ということは、運営企画以外にこれでもか、というくらいの問題が起きてきます。まず最初に、あらゆる資料、企画書、内外へ提出する書類はすべて医学祭名義でしたので、それを一つ一つ医歯学祭に直す作業から始まりました。歯学部が運営に携わることを、よく思わない人からはいわれのない批判を受けたりと、様々ありましたが、すべては逆に私の力になりました。初めてなので、煙たがれること、批判を受けることは承知の上でした。歯学部にて実行委員を設立しておいて、今までとたいして変わらなければ、今までの行動がすべて無駄になってし

まいますし、『所詮そんなもんか』と思われてしまったら、意味がありません。最初で最後のチャンスだと思い、これでもか、というくらいに、徹底的に全力で行動してきました。

さてこれからが、話の山場になってきますが、なんと原稿に字数制限がありまして…まとめには入ろうとおもいます。

先述のように、たかが文化祭なんです。ではどうしてここまで、歯学部、医学部にこだわるのか、熱くなるのか、と思う方もいると思います。それは、文化祭を楽しみたいからです。ただ単に楽しみたい。この思いでやってきました。一、二年生の頃は、歯学生が楽しむ環境は整っていませんでした。おかしくないですか、私たちだけ、皆さんだけが楽しめない環境があるのは。これが、一年生の頃に感じた思いであり、私のモチベーションになりました。三年生になり、多くの歯学部生も楽しめる環境になってきました。がまだまだです。これから第5回6回…、10回…、と続いていきますが、本当の意味で医歯学祭になるように、完全に『歯』が生えるように、そして『歯』は完全に生えたように見えても、歯根は未完成です。しっかりと根付くように、しっかりとサポートをしていきたいとおもいます。それは10、20期生後の歯学生も楽しめるためにです。

多くの歯学部三年生には、言葉にならないくらいお世話になりました。みんなのお陰で、第四回医歯学祭は成功できたと思っています。ほんとうにありがとう。



筆者、前列左から二番目